

出合い ふれあい 新発見 in 福山

府中市立国府小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流 社会奉仕

体験活動場所 福山市・広島県立福山少年自然の家

【学校紹介】

- 本校は、学校教育目標を「心豊かに意欲的に学ぶ子の育成」、めざす子ども像を「よく学び考える子」「心のあたたかい子」「生き生きと活動する子」とし、ことばの教育の充実・掃除力アップ・基礎体力の向上・食育指導等に取り組んでいる。本年度から研究主題を「学びの実感を生み出す授業の創造」とし、国語科を中心として「読むこと」と「書くこと」を関連させた指導の研究を進めている。



校区は、国道486号線に沿って位置しており、商業地が広がり、生活の便利もよいため、児童数は一定数（350名前後）を保っている。学校周辺には、田や畑・芦田川・砂川がある。地域の町内会（6町）連合会及び各種団体活動の盛んな地域であり、学校教育に対する期待と関心も高く、児童の安全を見守る「国府っ子を見守る会」も設立されている。

本校の児童は、何事にも積極的に取り組む意欲や、決められたことは守ろうとする規範意識も育ってきている。しかし、自ら課題を見つけ、より良い方法で解決していく力に課題がみられる児童も少なくない。

こうした児童の実態から、学校では、地域の条件を生かし、クラブ活動や総合的な学習の時間・社会科等において、全学年で体験活動や校外学習を積極的に取り入れ、児童の学習意欲を高めるとともに課題解決の力を高めることに取り組んでいる。特に5年生では、地域の方の指導のもと近隣の田を借りて米作り体験活動を行っており、一年間を通して勤労生産にかかわることができている。

- 校長名：宇根 真砂子
○児童数：339名（15学級）
○所在地：府中市高木町617番地
○電話番号：0847-45-2059
○URL：<http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~kokufu-shou/>

【体験活動のねらい】

- 集団での宿泊体験活動を通して、衣食住に係る活動を最後までやりきらせることにより、忍耐力や自立心を高める。
- ウォークラリーやキャンプファイヤーなどの集団活動を通して、思いやりの心や協力することの大切さに気付かせるとともに、友だちの良さを認め合う心情を育てる。
- 地域住民との交流やボランティア活動などを通してコミュニケーション能力を育成するとともに、自己効力感の向上を図る。
- 野外炊さんや食事を通して、食の大切さと食物に対する感謝の心を育てる。
- 星空観察を通して、星座に関心をもたせるとともに、自然環境を大切に作る心情を育てる。

【活動計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
5月 ～ 6月	事前学習 ○「米作りに挑戦しよう」 ・田の肥料まき ・植ええ ・田植え ・田の草とり	10	総合的な学習の時間	学校	教職員 ゲストティーチャー (地域ボランティア)

	<ul style="list-style-type: none"> ○「おもちゃのシンフォニー」 ○「宿泊体験活動に向けて」 ・オリエンテーション、班編成、委員会での役割分担、目標設定など ○「施設訪問に向けて」 ・高齢者施設での交流に向けての手遊び歌などを受講・学習 	1 1 1	道徳 学級活動 総合的な学習の時間		学級担任 学年担任 ゲストティーチャー (地域ボランティア)
7月	宿泊体験活動 <ul style="list-style-type: none"> ○星の観察 ○ウォークラリー ○キャンプファイヤー ○野外炊さん ○明翠園(養護老人ホーム)との交流 ○お家の方からの手紙 ○鞆の浦ウォークラリー 	7月 17日 ～ 7月 20日 (3 泊 4 日)	学校行事	福山少年自然の家	ゲストティーチャー 施設職員 教職員
9月 ～ 11月	事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ○「宿泊体験活動をふり返ろう」 ○お礼の手紙 ○米作りに挑戦 ・かかし作り ・稲刈り ○活動報告書作成 ○振り返り新聞作成 ○宿泊体験活動「ここで一句」作成 ○活動報告発表会 	1 1 5 8 5 0.5 5	学級活動 国語科 総合的な学習の時間 国語科 総合的な学習の時間 ことばの時間 総合的な学習の時間	学校	担任 担任 教職員 ゲストティーチャー (地域ボランティア) 担任 担任 担任 学年担任

【体験活動の概要】

- ボランティア活動など社会奉仕に関わる体験活動・交流にかかわる活動(養護老人ホームでの交流)

社会福祉法人明翠会「明翠園」(特別養護老人ホーム)にて、施設利用者との交流を行った。事前に、地域ボランティアの方と「手遊び歌」などの演習を実施した。交流に向けての練習にあたっては、目的意識・

相手意識を持って行うことを常に指導していった。交流では、児童が積極的にお年寄りの側にいき、しっかり話しかけ、コミュニケーションを行っていた。お年寄りの笑顔に児童自身が癒され、満足感・達成感を味わうことができた。

- 交流にかかわる体験活動(鞆の浦ウォークラリー)

福山少年自然の家にて、1回目のウォークラリーを実施し、そこで培った力と方法を基に、初めての地である「鞆の浦」でウォークラリーを行った。

少年自然の家での方法と同じように鞆の浦用のコマ図を基に、三つのチェックポイントに設けられた問題を解きながら町を回った。チェックポイントには、町にある神社に奉られている「力石」についての問題や、大きな神社の階段数など、町をしっかり観光しないと分からない問題や、グループでの協力を要するような問題を取り入れた。途中、地域の方々に積極的に質問している班、もう一度その位置に戻っている班などがいた。児童の質問に丁寧に答えてくださったり、挨拶に気持ちよく応えてくださったりする鞆の浦の方々の優しさに触れることができた。見知らぬ土地という不安はなく、鞆の浦の自然や人、町との交流を楽しめたようだ。

交流後、鞆の浦の地域の方々へのお礼の手紙を出した。その手紙を観光情報センター長の方が喜ばれ、地域全体に回覧してくださった。



鞆の浦の方との交流を深められたことに、児童の喜びもひとしおであった。

○自然にかかわる体験活動（ウォークラリー・キャンプファイヤー・野外炊さん）

事前に各係（リーダー、サブリーダー、食、レク、広報）を「〇〇委員会」と称して、それぞれの目標決め・役割分担などの話し合いを実施した。また、それぞれの委員会で役割の準備を行った。自覚と責任をもった行動ができるよう、一人一役とし、班編成は、それぞれの委員会が集めたものとした。その班編成を中心に、様々な体験活動を行った。

1回目のウォークラリーは、リーダーやサブリーダーが中心となって活動を行った。お互いに一人一人の個性を感じ、意見を戦わせたり、仲間の良さを改めて感じたりしながら進めていった。自然の中で協力を余儀なくさせられるこの活動は、以後の活動に大きく影響し、児童同志の絆が深まるきっかけとなった。

キャンプファイヤーは、児童にとって最も印象に残った活動だった。事前から班内で考えていたスタuntsを披露する場面では、班内での協力や表現力が試される場であった。児童は、トーチ棒を置いて退場し、上から眺める灯りの輪を「友情の輪」と名づけ、自然の中での感動に浸っていた。

野外炊さんでは、一人一人が役割を担当し、初めて薪を使用するのカレー作りを行った。一人一人の良さを生かしながら、かまどの担当や野菜を切ったり食器を洗ったりするなどの担当といった、分担作業により効率よく活動する姿が多く見られた。「男子が力仕事をしてくれて助かった。」という女子の声や、「女子が野菜を切ったり下準備をしてくれたりするから安心してかまどの作業ができる。」という男子の声が聞かれ、お互いの信頼感を生む活動の一つでもあった。



【体験活動の効果を高める事後活動】

○活動報告書作成（国語科）

国語科「活動を報告する文章を書こう」の単元での終末の言語活動として、体験活動報告書を作成した。「活動計画」「活動報告」「活動して考えたこと」「これからの自分」の項目をもとに、活動した内容を報告書として書いた。また、その報告書は、次年度の5年生に読んでもらうことを事前に伝え、目的意識を持って取り組ませた。（児童の作品前半部分省略）

○活動して考えたこと

体験活動では、友情・友だち・相手を思う気持ちなど色々な力がないと3泊4日は乗りきれないと思った。また、みんながいるとどんな時も心強いと思った。そして、活動の中で、自分の苦手な所もいくつか見つけることができた。でも、これがぼくなのだ。良い面でもあり、悪い面でもあるのかなと考える。

○これからの自分

自分に長所や短所があるように、みんなにもそれがあるはず。友だちができないことは自分の長所で補い、自分ができないことは、友だちの長所で補ってもらおう。そうやってお互いに助け合いながら生きていきたい。

○宿泊体験活動報告発表会（総合的な学習の時間）

それぞれの委員会に分かれ、委員会としての活動内容をプレゼン形式で発表したり、それぞれの委員としてのエピソードを劇や紙芝居などで表現したりした。

体験活動の事前に、保護者にわが子への手紙を書いてもらい、その手紙を3泊目の夜、全員へ手渡した。児童自身への保護者の思いが綴られた手紙に涙を流しながら読む児童ばかりであった。そして、その保護者の思いに応える返事をこの発表会で手渡した。発表会では、代表児童一名が手紙を読み、歌のプレゼントでしめくくった。

宿泊体験活動 報告発表会《児童感想》

発表会の最後に、私はお母さんへの手紙を読みました。その後教室に帰ると、「よかったよ。」「がんばったね。」「もらい泣きしそだったよ。」と声をかけてくれた友だちがいたのでやってよかったと思いました。私は初め、先生に指名されたとき、人の前で手紙を読むのは正直とっても不安でした。でも「〇〇ならできるよ。」「がんばりいね。」と言ってくれた友だちがいました。とっても支えられました。そしてみごとに読みきることができました。はげましてくれたみんなに本当に感謝しています。

また、私がいいなと思ったことは、練習の時とはちがって、みんな、それぞれ一人一人が主役になっていたことです。みんながこの世界に入り込んで必死にがんばっていてとってもよかったです。私もがんばったし、私たちの委員会グループ（体験活動での役割担当グループ）も観客を笑わせることができ、目標達成です。本当に良かったです。—省略—

（みんなの発表を見て）これからはみんなにおいていかれないようにしなくてはと思いました。だから、そのために、聞かれたら即対応できる力を付けていく。自分の為だけではなく、人の為に動ける人になっていく。そして、鞆の浦のやさしい人たちのように、一生やさしい人間でありたいと思いました。

【安全面の配慮事項】

- 事前に、児童の持病による緊急体制を引率教員、保護者、学校待機職員と協議連携を行った。
- 活動場所や周辺の環境の危険箇所などの確認のため、現地の下見を行った。
- 調子の悪い児童を一時休ませる場所として、1部屋設定した。夏休み実施の為、熱中症の疑いのある児童は家庭へ連絡をとり、保護者に病院に連れて行ってもらうようにした。

【体験活動の成果と課題】

<成果>

- 指示されたことはできるが、自ら考えて自覚と責任を持って行動することに課題のあった児童だが、児童アンケートの結果によると課題解決力の自己評価が高くなっている。

保護者アンケートの結果からも、児童の課題解決力を見取る項目でも、事前の66%から発表会後の76%に向上していた。

学校生活の中でも、当番や委員会活動、学習場面など様々な活動の中で、自ら考え行動する場面が多くなってきた。

- 児童のアンケートの指標「他者への感謝・思いやり」の項目『ありがとう』が言える。』の項目での「あてはまる」は、事前98%から事後には100%になった。また、「相手の立場になって考えることができる。」では、グラフにあるように事前から発表会後に向けて92%から97%の向上が見られた。

一つ一つのことに人がかかわり、お世話になっていることを実感できたようだ。以前にもまして、友だちとかかわることが多く、友だちの良さに気づくことも多くなった。事後に行った、学級活動「宿泊体験活動をふり返ろう」での、「ありがとうゲーム」では、班の中でお互いに「〇〇さん、～してくれてありがとう。」と声を出して伝えた。その後の感想では「自分では気付かなかったことを『ありがとう』と言ってもらい、とても嬉しかった。友だちに言うときはずかしかったけど、言えて良かったと思っている。」とあった。思うだけでなく、伝えることも大事であることを実感できたようだ。

<課題>

- 全てのアンケートの結果より、地域に対する関心度が薄いことがわかる。全項目の中でも、「あてはまる」の人数が最も少なかった。福山少年自然の家での自然の素晴らしさや鞆の浦での人の温かさに触れることはできたが、自分がくらす地域のこととなると、知らないことや当たり前すぎて気付かないことが多いと考える。3学期は、総合的な学習の時間「わが町を紹介しよう」において、地域の良さを見つけ、紹介していく取組を行う予定である。

